

「豊かさ」について考える

学校所在府県：大阪府

学 校 名：大阪府立長野北高等学校

名 前：横井 直子・地理歴史科

実践教科：日本史

指導時数：3時間

対象学年：高等学校3年生(2クラス)

対象人数：66人

1. 教師海外研修を通して感じたこと

わたしがこの研修に申し込んだ理由は、教員生活も6年目になり、何か新しいことに挑戦したい、と思ったからだ。そう考えたときに「国際理解教育」を思い出した。教員1年目に会った先輩で、国際理解教育を実践されている方がいた。そしてその尊敬すべき先輩が、この研修の良さを教えてくれたことを思い出したのだ。表立って活動することはなかったが、学生のころから「国際協力」に興味のあった私は、今後ますます必要とされるであろう「国際理解教育」に教員として関わっていきたい、と思ったのだ。

この研修についてまず思うことは、「参加して良かった」ということだ。普通ならば訪問できない、NGOや政府機関等にいき、貴重な話をきくことができた。そして、日本がおこなっている国際協力を実際に現地で見学できたことは、今後「国際理解教育」をおこなう上においても大きな経験になった。そして、このことだけでも十分にすごいが、「国際理解教育に興味をもつ教員と知り合いになれた」ということが本当に自分の財産になったと思う。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

本校は勉強を苦手とする生徒が多い。教科の授業でさえ、座って教員の話を書くことに苦痛を感じている生徒がいる。その中で「国際理解教育」をおこない、生徒たちに思考することを促せるのか、授業が成り立つのか疑問だった。しかし、今後グローバル化はますます進み、いやがおうにも生徒たちがその波にまきこまれるのは明らかだ。その中で、地球規模の視野で考え行動することの大切さ、少数の意見を聴くことの必要性を伝えようと考えた。

1年時、地理で1時間程度、世界の諸問題をとりあつかう程度で、生徒たちにとって「国際理解教育」はほぼ初めての授業であった。夏休み前に1時間、2学期に2時間しか授業時間を確保できなかったこともあり、ネパールについては概要にとどめ、「豊かさについて考える」ことに主眼をおいた。2回目の授業は、ちょうど明治維新を取り扱う時期におこなった。幕末期から明治期、日本では列強のもつ西洋文明に圧倒され、急速な西洋化が官民共におこなわれていく。今現在、ネパールだけでなく、世界中で起こっているグローバル化と日本における明治期の西洋化について、その共通点を取りあつかった。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 ネパールについて 知ろう *ネパールの基本知識を身につける	●スライドを見ながら、ネパールの基本情報について説明し、ワークシートに記入する。 ●「マヌカのきもち」を用いて、日本とネパールの違いに気付く。	●スライド（パワーポイント） ●ワークシート ●「マヌカのきもち」

2 時限目 ネパールの 水事情について知ろう *「発展」とは何なのか考 える	●日本の「文明開化」はなぜ起こったのか考える。 ●ネパールの水事情について考える。洗濯や水汲み、 洗顔などの写真をつかってフォトランゲージをおこ ない、発表する。	●ワークシート ●スライド （パワーポイント）
3 時限目 「豊かさ」について 考えよう *消費社会において、自分 の価値観をもつことの重 要さに気付く	●生きていく上で大切な価値観を考える。 ●最新型携帯を欲しがる具体例を読み、日本という物 にあふれた社会において、自分が大切にしたい価値 観について考える。	●ワークシート ●スライド （パワーポイント）

3. 授業の詳細

1 時限目：ネパールについて知ろう

ねらい…①ネパールの基本知識を身につける
②外国に興味をもつ

◆内容◆

- ① 国旗、人口、首都、位置、日本との関わり、2015年の地震についてなど、ネパールの基本情報についてスライドをつかしながら説明する。その際、クイズ形式にすることで生徒の参加を促す。
- ② 「マヌカのきもち」を使って、日本とネパールの違いに気付く。グループ活動をおこなうことで、生徒同士のコミュニケーションを活性化させ、名前も知らなかった国について興味をもつ。
- ③ ネパールで教員に調べてきてほしいことを考える。

生徒のアンケート

生徒の反応・感想

- ▶ スライドを使ったクイズでは、声をだす子も多くいて興味をもって参加していた。
- ▶ 「マヌカのきもち」では4～6人のグループ活動にしたが、班の中で参加する子としない子に分かれてしまった。
- ▶ ネパールで教員に調べてきてほしいことをアンケートにしたところ、食事や遊びについての質問が多かった。

◆所感◆ ● 班活動にすることで、生徒同士のコミュニケーション促そうとしたのだが、参加する子としない子に分かれてしまった。本校の生徒にとって、生徒同士のコミュニケーションをとることは非常に難しいという、認識不足だった。また、「正しい答え」を知りたがる子が多く、答えを導き出す過程で議論が生まれることを期待したが、なかなか難しい様子だった。

● いつもとは違う授業、ということもあってか、始めはすごく興味をもっていた。外国に興味がない子が多いと思っていたが、少なからず関心を持つ子がいることがわかった。

2 時限目：「ネパールの水事情について知ろう」

ねらい…①「発展」とは何なのか考える

②明治時代の「文明開化」＝「西洋化」であったことに気付く

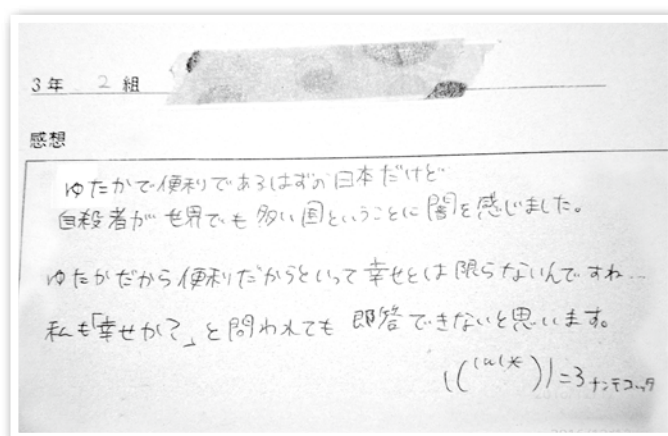
◆内容◆

① 前回授業の内容である「文明開化」について確認し、なぜ明治時代にそれが起こったのか考える。
そして「発展している」「進んでいる」とはどういうことなのか問題提起する。

② 写真をつかってフォトランゲージをおこない、ネパールの水道事情（共同）について考え、発表する。グループで1枚写真を選び、その写真の人物の考えていることを考える。各メンバーが必ず一言考えるようにする。

使用した写真：街中の洗濯写真、家庭での食器洗い写真、水汲みの写真

③ 先進国と発展途上国について説明し、「発展」のゴールが何なのか考える。



授業の感想①

生徒の反応・感想

- ▶ おおむね楽しそうに参加していた。
- ▶ 限られた水をみんなで分け合うのは大変そう、という意見や、手で洗濯しているのが大変そう、という意見が多かった。
- ▶ 内容②については班員全員が「違うこと」を言うように指示したので、そこで難しいと感じる生徒がいた。
- ▶ 班ごとの発表では、恥ずかしがる生徒が多く、意見を言いたがらない生徒がいた。

◆所感◆ ● 前回の反省から「班員全員が必ず参加しなくてはならない」班活動を目指した。しかし、それがストレスになってしまう生徒がいて、もう少し参加の程度に幅をもたせれば良かった。

● 共同水道の良い点・悪い点についても言及したつもりだったが、各家庭に水道がない＝「不便」という印象を強くもつ生徒が多く、共同水道の良いところ（水道を使う人同士のコミュニケーション、思いやりなど）に気付く生徒が少なかった。

● 「発展」は「便利になる」と同義だから良い事、という生徒が多く、それにともなう「諸問題」に思い当たらない、または気付かない生徒が多かった。自分の周りだけでなく、もっと広い視野をもつ大切さを伝えていきたい。

3 時限目：「豊かさ」について考えよう

ねらい…①消費社会で生きていく方法を学ぶ

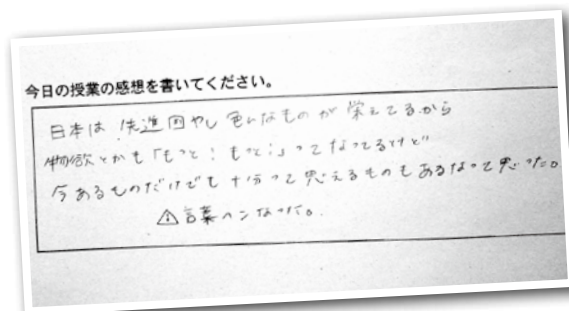
②「豊かさ」について考える

◆内容◆

- ① 生きていくうえで大切だと思うものについて考える。スライドで 17 個の価値観（豊かさ）について説明し、自分が大切だと思う価値観を 3 つ選び、順位付けする。発表者を募り、その生徒の意見をきく。そして「人によって異なる」ことに気付く。
- ② 前回の授業で「便利な国（日本）に生まれてよかった」という意見があったことを紹介。「日本に生まれてよかった」はみんなが少なからずもつ感想かもしれない。なぜ、そう思うのか自分の意見を考える。
- ③ 「モノの豊かさ」について考える。具体例「恵子さんの話」を読み、「モノ」に振り回される生活になっていないか自分自身を振り返る。ホセ・ムヒカ氏を紹介し、「足るを知る」という言葉を紹介する。



授業の様子



授業の感想②

生徒の反応・感想

- ▶ 数人の生徒がすごく反応を返してくれ、他の生徒が静かになりすぎた。
- ▶ 静かになっていた生徒も含めて、考えたことのない事を考えて面白かった・楽しかったという意見が多かった。
- ▶ 「日本に生まれてよかった」という感想には「だから、世界に貢献することができる」という思いがつづいているのではないか、という意見があった。
- ▶ 「人生において何を大切に思うかは、その人その人によって違う物だと思った」という意見があった。

◆所感◆ • 「興味のない生徒も含めて、みんなが考える授業」のむずかしさを感じた。「いろんな考え方があっていい。他者の考えを理解・尊重することが大切だ」と、それを生徒に伝えたいと思っているが、授業をする思惑はあって、反応が期待通りでないと失敗したように感じてしまう。しかし、少しでも「こんなこと言っていた」と思ってくれたらいい、と思うようにしたい。

• 後半、一部の生徒と教員の議論のようになってしまい、思いのほか時間がなくなってしまった。そして、教員が一方的にしゃべり、生徒に考え発表させる時間が少なくなってしまった。生徒との議論に他の生徒を巻き込むことができたなら、もっと有意義な授業になったと思う。

4. 成果

3点あげる。1点目は、生徒たちが外国に対する関心を少なからずもったということである。本校の生徒の外国に対する関心の程度はとても低い。知識としても他国について知っている生徒は少ない。しかし、ネパールという国について知り、「外国に行ってみたい」という感想をもった生徒がいた。このことが大きな成果だと思う。自分の周りのことを大切にすることはもちろん大切だが、それだけではなく、もっと広い視野をもち地球規模で考える姿勢を身につけることが、これからますます必要になる。世界で起こっている問題が、実は日本にいる自分達にとっても無関係でないこと、そのことに気付かなくてはならない。そのためにも、「外国にいつてみたい」という関心から視野を広げてほしいと思う。

2点目は生徒たちが考えたり自分の意見をいうことを嫌ったりしているわけではないことを知れたことだ。本校の生徒は教科の勉強は不得手である。しかし、ネパール授業を通して思ったことは「考えることに苦手意識をもっているが、考えたりそれを表現したりすることを嫌ってはいない」ということだ。ゆっくり落ち着いて思考することを面倒だと考える生徒もいるが、そういう生徒も思考することを頭から拒否しているわけではなく、タイミングや興味が合った時には思考し表現する。教科でない授業のほうがそういう面をみることができた。

そして最後に「国際理解の授業を初めて受けた」という生徒がいたことだ。「世界について知り、自分のことを知る」。そこまで私が導けたかどうかは疑問だが、その機会を与えることができてよかった。

5. 課題

今後、国際理解の授業をおこなうにあたり、自分自身の課題として3点あげておく。1点目は、生徒同士のコミュニケーションを活発化させておくことだ。ただし、これは国際理解の授業というより、普段からの積み重ねの問題である。本校の生徒はクラスメートであっても、しゃべり慣れていない者同士がグループになったとき、円滑な班学習をおこなうことが難しい。班学習をするために、しゃべり慣れていない者同士でもコミュニケーションをとることができるように、普段から生徒同士の壁を低くする試みをおこなっておきたい。今回は対象が3年生であったこともあり、思うように生徒同士のコミュニケーションをとらせることができなかった。今後は普段から「仲良くない子にも話しかけられる」ようになる働きかけを増やしていきたい。

2点目は思考することに慣れさせるということだ。学習において「わかった」「なるほど」と思うのは、自分自身が落ち着いて物事を思考したときにはじめて得られる感覚である。ところが、生徒の中には「落ち着いて考える」ことが週刊になっておらず、行為自体を苦手としている子がいる。そういう生徒に達成感をもたせるためにも、思考することに慣れさせていきたい。そして、その方法として、1点目にもかさなることであるが、生徒同士の議論を活発化させたい。人は他人とコミュニケーションをとっているときにこそ、主体的に思考する。「考えること」に慣れさせるのは、非常に難しいことだが、他人とコミュニケーションをとる中で、習慣化させられたら、と思う。

最後に、私自身が授業において「意図するゴールを生徒におしつけない」ということだ。授業を通して伝えたいことはあるし、また、こういう風に考えるようにもっていききたい、という意図はある。しかし、それ通りになることを生徒に押し付けないようにしたい。「国際理解教育」の目的の1つには、沢山の視点をもてるようになる、ということがある。「答え」は1つではなく、見えにくい「答え」があることに気付くことがこの教育の意義なのだと思う。授業を組み立てた時、終着点を1つとするのではなく、「他の考えがでてこないかな、新しい視点はないかな」ということを常に意識したい。教員という立場で授業をおこなうが、「ファシリテーター」として生徒を導きたいと思う。そして、自分も授業をしながら、「学ぶ」姿勢を忘れないでいたい。

参考資料

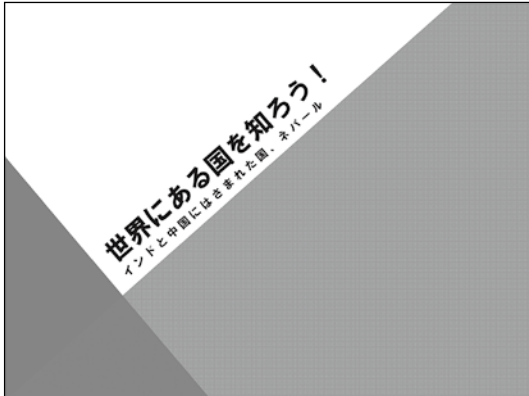
・参考文献

『世界がもし 100 人の村だったら 総集編』、2008 年、池田香代子＋マガジンハウス

・参考ホームページ URL

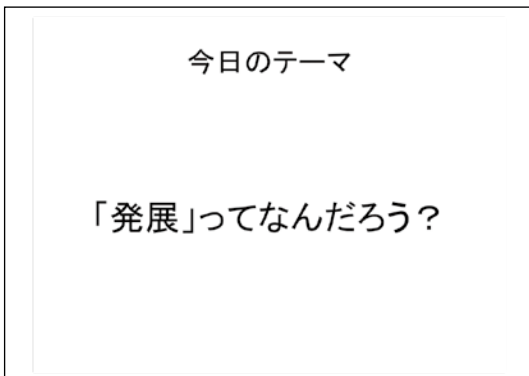
外務省 HP <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/nepal/>

資料 1



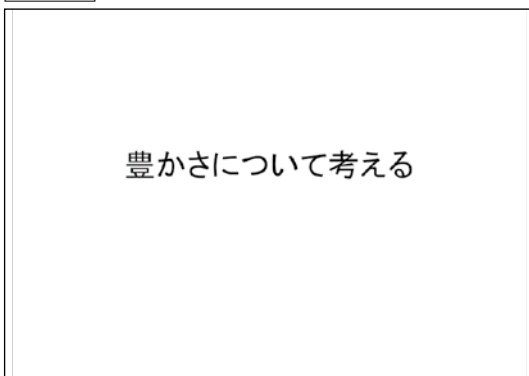
1 限目授業スライド

資料 3



2 限目授業スライド

資料 4



3 限目授業スライド

資料 2

世界とつながる第一歩 3 年 組 番 氏 名

問題に答えましょう！

1. この国の首都はどこですか。 ()
2. 日本にいる 2015 年の人口は 2000 年に比べておよそ何倍に増えていますか。 ()
3. この国の大多数が信仰している宗教は何ですか。 ()
4. 2 ドルは日本円でおよそ何円ですか。 ()
5. この国で憲法が制定されたのは何年ですか。 ()
6. マグニチュード 8 を超える大きな地震があったのは 2015 年の何月ですか。 ()
7. 世界最高峰の山は何といひますか。 ()

アンケートに答えてください。

1. 今日の授業はどうでしたか。 楽しかった or 日本史 3 の方がいい
2. 今日、自分ほどれくらい役に貢献しましたか。あてはまるものに○をつけて下さい。
*満足(けんまん)せず! 自分から発言したよ or 聞かれたことには答えたよ or しっぱれなかったよ
3. 娘でがんばっていた子は誰か、教えてください。
4. ネパールと日本の違いについて印象的だったことを教えてください。
5. ネパールで私に調べてほしいことを教えてください。
6. ネパールの子どもたちに防災について伝えたいことを教えてください。

1 限目授業プリント

資料 5

豊かさについて考える ネパール授業③

＜ 豊かさにおける 17 項目 ＞

1. おしゃれなもの、おいしいもの、便利なものがすくに入ります	2. 最新の携帯電話をすて手にいれられる
3. 誰もが尊敬をもって、仕事の内容に見合った対価を得ながら働くことができる	4. 商業施設や娯楽施設をよびこみ、自分の住んでいる地域が活性化している
5. 大気・土壌、海洋汚染や森林破壊、生物の絶滅がこれ以上進まない	6. 少数意見であっても尊重され、簡単に切り捨てられない
7. 自分たちの地域のことには住民が話し合っていて決める	8. 銃などの武器が簡単に手に入らない
9. 長時間の通勤・通学や満員電車で悩まされない	10. 十分な水があり、毎日お風呂に入ることができる
11. 大人も子どもも、自分の望む教育をいつでもどこでも受けることができる	12. 「女性だから～」「男性だから～」「○○だから～」という考え方に縛られない
13. いざというときに頼ることのできる友人がいる	14. 税金は高いが、医療や福祉、教育に税金が多く使われ、福利サービスが受けられる
15. 防衛予算を増額して、軍力を強化する	16. 自分の自由な時間がある
17. 十分な金融資産があり、利子や株式配当だけで生活することができる	

質問 1. あなたにとって、生きていくうえで大切な価値観ってなんですか？上の表から選びましょう。そして順位をつけてみましょう。

1 位 _____ 2 位 _____ 3 位 _____

質問 2. みんなそう思う部分があるはず。どうしてそう思うのだろう？考えを書いてください。

3 限目授業プリント